

令和2年度 学校評価のまとめ  
ア 自己評価結果等

本年度の重点目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の障害特性に基づいた支援の方法と授業づくりを推進する。</li> <li>・児童生徒にとって安全安心で健康的な環境をつくる。</li> <li>・業務の効率化を図り、児童生徒と向き合う時間を増やす。</li> </ul>	
項目(担当)重点目標		具体的方策	評価結果と課題
総務部	教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室物品の保管状況を集約し、必要に応じて修理、交換、購入等を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期毎に教室物品の点検を実施し、予備との交換に応じた。</li> <li>・破損の多い物品の仕様を見直し、購入伺を出した。徐々に強度の高い物に変更していきたい。</li> </ul>
	業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政文書ファイル管理表を活用して、資料の整理を確実にを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政文書ファイルの確認を行い、適切なファイル保管が確認できた。</li> <li>・廃棄文書の処理を適切に行った。</li> <li>・各分掌に昨年度のファイルまとめや次年度のファイル作成の依頼をしながら、適切な文書管理についての周知を行っていききたい。</li> </ul>
教務部	障害特性に基づいた支援の方法と授業づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画に基づいて行われた学習状況や結果を適切に評価し指導目標や指導内容、指導方法の改善に努めより効果的な指導ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、年間計画に2回の支援会議を取り入れて実施した。第1回目の支援会議では、児童生徒の指導すべき課題、目標、手だて、指導内容等をまとめた共通理解シートを持ち寄り、児童生徒一人一人の個別の指導計画について確認し合い指導方法を共有した。第2回目の支援会議では、1学期の授業内容や評価を報告し合い、後期の目標の共通理解を図った。2学期以降は学年会等で指導の振り返りを行い授業改善に努めた。次年度に向けて作成する諸帳簿の系統性を考えて年間スケジュールを見直し年度末の支援会議を計画している。</li> </ul>
	業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人ファイルの効率的な作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「諸帳簿作成の手引き」を整理し、活用できるようにする。</li> <li>・個人ファイル作成の効率化を図るため諸帳簿作成の手引きの目次とその内容をリンクさせ、手順や留意事項を容易に閲覧できるようにした。個別の指導計画の作成については誤入力を防ぐために入力画面に誤字が表示されるように設定した。次年度は教務部の各係の年間を通したスケジュールや業務内容の引継ぎ資料を作成し業務を見える化することで効率化を図りたい。</li> </ul>
生徒指導部	安全安心な環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全教育の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒心得、生活のきまり、リーフレット等を活用して職員間で共通理解し、連携しながら指導する。</li> <li>・生活のきまりの見直しを行い、禁止事項と注意事項に整理して職員への共通理解を図った。生徒心得や生活のきまりを活用し生徒指導部、学年主任、担任が連携しながら指導を行うことができた。次年度に向けて、生徒の実態や社会の状況に合わせて生徒心得の内容を見直すことができた。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理体制の充実</li> <li>・いじめの未然防止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアルの整備、周知を行う。</li> <li>・生活アンケートや連絡帳、保護者への聞き取り、児童生徒の様子や変容を見守ることを通じて、いじめの兆候を早期発見し、早期対応する。</li> <li>・訓練等の反省を生かし、危機管理マニュアルを見直すことができた。職員に対する周知は十分でないため、次年度の訓練や研修等で共通理解を図っていききたい。</li> <li>・児童生徒の日頃の観察、生活アンケートや保護者との情報交換、職員間の連携を通じて、いじめにつながるような問題に対して早期発見・早期対応することができた。</li> </ul>
進路指導部	障害特性に基づいた支援方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内・職場体験・産業現場等における実習の円滑な実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路の手引き、実習マニュアルの周知徹底を行う。</li> <li>・情報の共有に取り組む。</li> <li>・実習に関しては、円滑に行えた。</li> <li>・コロナの影響で、高等部進路説明会を中止したため、進路の手引きの活用は十分とは言えなかった。</li> <li>・学期末に進路だよりを発行した。</li> <li>・高等部に関しては、情報共有は行いやすいが小学部・中学部については、進路指導部から職員へ職員から保護者への情報提供には課題が残った。</li> </ul>

保健体育部	安全安心な環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食に関する支援・指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「食に関する支援・指導」についての情報を職員へ提供する。</li> <li>・保護者にアンケートを取り実態を把握する。</li> <li>・食に関する諸問題について保護者と連携して取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食に関する指導の全体計画を確立することができた。今後は職員への周知を図る。</li> <li>・学校保健委員会において「栄養と健康について」の講演を行い、職員や保護者へ情報を提供することができた。</li> <li>・保護者へ保健アンケートを行い、実態を把握することができた。また、問題を把握し、一部ではあるが、情報の提供を行った。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全安心な保健管理の推進</li> <li>・緊急事故対応の定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健関係の手引きの周知徹底を行う。</li> <li>・緊急対応カードと校内電話を活用できるようにする。</li> <li>・緊急対応カードの見直しと校外活動時の緊急対応カードの検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急対応の記録用紙を改訂した。</li> <li>・緊急対応訓練を行い、緊急対応カードと校内電話の活用が定着してきた。</li> <li>・緊急対応カードの一部見直しを行うことができた。</li> <li>・校外活動時の緊急対応カードの検討を引き続き行う。</li> </ul>
研修部	児童生徒の障害特性に基づいた支援の方法と授業づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内教員研修の内容の見直し、資質・能力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過年度の反省を踏まえ、教育上の課題に対応できる内容を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初任者校内研修については、より幅広い内容を受講できるように研修内容の一部を変更した。新たな研修内容として道徳、いじめ・不登校、自立活動の項目を取り入れて実施した。新型コロナウイルスの影響で校外研修の代替が校内に変更されたこともあったが、臨機応変に対処した。</li> <li>・研修終了後のアンケート結果や研修報告書から各研修者は幅広い知見や対応力を得ることができたことが読み取れた。</li> </ul>
研究部	児童生徒の障害特性に基づいた授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動の時間における指導の理解と実践研究の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通理解シートをベースにして、児童生徒の指導すべき課題を明確にした授業づくりをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通理解シートを基に、子どもの困り感の背景にあるものや課題、目標、指導内容、手立てなどを教員間で共有できた。</li> <li>・記録シートを提示することで、PDCAサイクルに基づいた授業づくりをすることができた。</li> <li>・職員が自信をもって根拠に基づいた授業づくりができるように、3年間の研究の成果や課題を教務部と自立活動部と連携してまとめた。</li> </ul>
図書部 図書部	児童生徒にとっての安全安心で健康的な環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館を安全に使用できる環境整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書籍の落下防止のための工夫や上段に配架してある書籍の再配架を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災ヘルメットと頭巾の整理を行い、緊急時にすぐに手に取れる位置に配置した。</li> <li>・落下防止用の木材を大規模改修工事終了後に棚に設置する。</li> <li>・大規模改修による蔵書の移動に合わせて、上段に配架してある蔵書の配架棚の変更を行った。老朽化の本の廃棄についても年度末に実施する</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の利用促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションや図書館案内の配布により、貸出方法の周知を図る。</li> <li>・図書館を利用しやすくするための、貸出方法の見直しを行う。</li> <li>・校内読書コンクールに合わせたイベントを計画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館案内の改定や配布を行った。</li> <li>・図書室内のファイルに全員分のバーコードを準備し、立ち寄るだけで貸出ができるようにした。1学期間の児童生徒の貸出数が昨年度より増えた。</li> <li>・校内読書コンクールは行事等に配慮して募集期間を延ばして実施し応募総数が昨年度より増えた。</li> <li>・読み聞かせ会や南吉記念展などはコロナ感染拡大防止のため中止。次年度については、関係団体と調整中である。</li> <li>・工事による図書館閉館時の図書の貸出を小学部棟で行った。DVDや大型絵本は授業等で引き続き活用してもらうことができた。</li> </ul>

情報部	障害特性に基づいた支援の方法と授業作りの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを使用した授業づくりの推進と内容の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器の整備や計画的な購入をすすめ、授業等で使いやすく有効な環境作りを行う。</li> <li>タブレットPCなどのICT機器を利用した効果的な指導方法を提案する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットPCから直接カラー印刷できるようにジェルジェットプリンタの無線化を行った。</li> <li>夏季自主研修でiPadの代替コミュニケーションアプリの研修を行った。研修資料を校内webに載せて、全職員に共有できるようにした。</li> <li>実物投影機やポータブルプリンタの購入など、今後のICT活用に役立つ機器を整備した。</li> <li>児童生徒用タブレット端末の配布にあたって、児童生徒に機器の取扱方法や情報セキュリティや情報モラル教育をどのように進めていくか検討する必要がある。</li> </ul>
	安全安心な環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報漏えい防止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要性Aの情報の取り扱いを始めとする情報セキュリティ対策の徹底を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットPCやUSBメモリなどの校外への持ち出しが大幅に増えたが、現職研修で本校の情報セキュリティポリシーと情報漏えい対策の確認をしたり、情報資産持ち出し管理表を毎回提出したりすることで情報資産の取扱に対して高い意識をもって取り組めており、情報漏洩やウイルス感染などもなく、安全に扱うことができた。</li> </ul>
教育支援部	障害特性に基づいた支援と授業づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門性の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育支援部会で相談事例について検討する。</li> <li>教育支援部会で支援方法等について検討する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>巡回相談、ふれあい相談のケースについて、支援部会で継続的に検討を行った。WISC-IVやMIMを用いた支援方法について活発な意見交換ができ、専門性の向上につながった。</li> </ul>
自立活動部	障害特性に基づいた授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動の理解啓発と障害特性に基づいた授業づくりの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員間での連携を密にし、共通理解を図った上で、PDCAサイクルの視点に基づいた授業づくりを進める。</li> <li>児童生徒の課題を踏まえた教材・教具の活用の促進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援会議、研究日を活用して情報共有、共通理解が促進され、児童生徒の生活上又は学習上の困難さに気づき、一人一人の目標や内容に沿った授業づくりを進めることができた。来年度は、研究内容が変わり話し合いの時間の減少が予想されるので、支援会議の効率化を図ること、自立活動全般が円滑に進められるよう支援していくことが課題である。</li> <li>夏季に教材展示会を実施した。展示教材を参考に後期の授業づくりをしたいなど積極的な感想が聞かれた。大規模改修に伴い、教材貸し出し場所が不便になったが、変わらず積極的に利用されている。</li> </ul>
総合評価		<p>&lt;障害特性に基づいた支援の方法と授業づくりについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高等部に関しては、情報共有は行いやすいが、小学部・中学部については、進路指導部から職員へ、職員から保護者への情報提供には課題が残った。</li> <li>児童生徒用タブレット端末の配布にあたって、児童生徒に機器の取扱方法や情報セキュリティ、情報モラル教育をどのように進めていくか検討する必要がある。</li> <li>支援会議、研究日を活用して情報共有、共通理解が促進され、児童生徒の生活上又は学習上の困難さに気づき、一人一人の目標や内容に沿った授業づくりを進めることができた。</li> </ul> <p>&lt;安全安心で健康的な環境の整備について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の日頃の観察、生活アンケートや保護者との情報交換、職員間の連携を通じて、いじめにつながるような問題に対して早期発見・早期対応することができた。</li> <li>緊急対応カードの一部見直しを行うことができた。校外活動時の緊急対応カードの検討を引き続き行う。</li> </ul> <p>&lt;業務の効率化について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人ファイル作成の効率化を図るため、諸帳簿作成の手引きの目次とその内容をリンクさせ、手順や留意事項を容易に閲覧できるようにした。個別の指導計画の作成については、誤入力を防ぐために入力画面に誤字が表示されるように設定した。</li> </ul>		

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害特性に基づいた支援の方法と授業づくり</li> <li>安全安心で健康的な環境の整備</li> <li>業務の効率化</li> </ul>
--------------------	--

自己評価結果について	<p>自己評価（中間評価）に対して、「良好」「概ね良好」「やや不十分」「不十分」の4段階で評価をしていただいた。全体的には「良好」「概ね良好」がほとんどであったが、児童生徒の個に応じた指導・支援や校内教員研修の見直し等、一部の関係者から「やや不十分」という評価をいただいた。</p> <p>具体的な意見については下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立活動の内容を詳しく教えてほしい。</li> <li>・ 児童生徒個々に合った指導にやや不安があるが、今後に期待したい。</li> <li>・ 進路について、小・中学部段階から先の見通しがもてるようにしたい。</li> <li>・ 緊急対応カードは、何をすればよいか誰でも分かりやすくしてほしい。</li> <li>・ 研修については、教えることで自分も学ぶことができる。</li> <li>・ 今後のタブレット端末の活用が楽しみである。</li> </ul>
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進路に関する情報提供や相談を適切に行うため、ニーズの把握と情報提供の在り方を検討する。</li> <li>・ 人権や障害特性に配慮した指導や支援について、支援法にかかる専門性を高め、更にも人権に配慮した丁寧な指導を推進する。</li> </ul>
その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子供たちのよりよい支援、指導のために課題を見つけてもらい感謝している。</li> <li>・ ずっと悩んできたが、先生の支援に頼ってよいことが分かった。</li> <li>・ 本会で学校のことをより知ることができた。今ある課題を解決するためには、いろいろなスタッフが連携することが大切である。</li> </ul>
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構成：PTA執行部、校長、教頭、部主事、校務部主任、その他必要に応じて</li> <li>・ 評価時期：10月末（中間評価）</li> </ul>